

事業番号	事務事業名	奥津紅葉祭開催事業費			所管課名	産業観光課	令和 2 年度課長名	小椋 正己
04371	政策名	2	地域経済を支える里づくり		係名	商工観光係	担当者・シート作成者	根本 瑞樹
	施策名	25	観光の振興		根拠法令等	鏡野町補助金など交付要綱(奥津もみじ祭り事業補助金)		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( 年度 ~ 年度 ) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	年間を通じて最大の集客時期である紅葉の時期に併せて奥津地域の風土、自然、物産、伝統等隠れた良さを観光客にアピールし、地域の人づくり及び、人の和を祭りを通じて後世に伝えとともに、鏡野町全域の活性化を促進する。	オープニングイベントについては、合併以前より旧奥津地域のイベントとして定着実施していたが、奥津溪との一体的なイベントとしては時間を要し、平成24年度事業名等も統一して開催した。

2. 事務事業の対象・意図・活動・成果指標

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度
ア 町民・観光客	ア 町民人口	人	見込 実績	12,435 12,926	12,285 12,754	12,143 12,625	11,970	11,800
イ	イ		見込 実績					
ウ	ウ		見込 実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度
ア 来場者の増加(町のPR)	ア 来場者数(概数)	千人	目標 実績 達成率	100 100 100.0%	100 100 100.0%	100 100 100.0%	100	100
イ	イ		目標 実績 達成率					
ウ	ウ		目標 実績 達成率					

③主な活動内容	⑥活動指標	単位	区分	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度
ア もみじ祭り	ア もみじ祭りオープニングイベント 催行回数	回	目標 実績 達成率	1 1 100.0%	1 1 100.0%	1 0 0.0%	1	1
イ	イ		目標 実績 達成率					
ウ	ウ		目標 実績 達成率					

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01 一般会計	款 07 商工費	項 01 商工費	目 03 観光費	大事業 03	中事業 12	予算上の事業名 奥津紅葉祭開催事業費	事業番号 04371							
予算(千円)	30年度 実績	1年度 実績	2年度 実績	3年度 見込	4年度 見込	前年比	決算(千円)	30年度 実績	1年度 実績	2年度 実績	3年度 見込	4年度 見込	前年比		
国庫支出金							国庫支出金								
県支出金							県支出金								
町債							町債								
その他特財							その他特財								
一般財源	4,433	4,453	4,783	4,453	4,453	330	一般財源	4,354	4,442	4,753	4,453	4,453	311		
合計	4,433	4,453	4,783	4,453	4,453	330	合計(A)	4,354	4,442	4,753	4,453	4,453	311		
財源名称	従事正職員人数						2	2	2	2	2	2			
	延べ業務事務時間						50	50	50	50	50	50			
	人件費計(千円)(B)						169	175	167	168	168	168	-8		
最終予算額		4,783 千円		予算執行率		99.3%		トータルコスト(A+B)		4,523	4,617	4,920	4,621	4,621	303
主な 支出事業内容 (予算)	委託料 溪谷警備及びライトアップ料			4,622 千円			主な 支出事業内容 (決算)	委託料 溪谷警備及びライトアップ料			4,608 千円				
	消耗品費			150 千円				消耗品費			134 千円				
	光熱水費			11 千円				光熱水費			11 千円				

事業番号	04371	事務事業名	奥津紅葉祭開催事業費	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	------------	------	-------

#### 4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
東洋一の甌穴群、国の名勝地「奥津溪」の紅葉は十分に周知されており、年々来訪者が増加している。数年前よりシーズンの渋滞等緩和のためのシャトルバスによるピストン輸送を開始し好評を博しているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により主要なイベントを中止した。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
平成20年度より「奥津温泉もみじ祭り」「奥津もみじ祭り」を統合し、奥津振興センターで祭り全体へのオープニングイベントとしての位置づけとし、全体を通して鏡野町観光協会による運営を行い事務効率化を図っている。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
鏡野町のPRでもあり盛大に開催してほしい。奥津溪への土曜・日曜・祝日の一般車両の乗り入れ禁止、平日の一方通行については、渋滞が緩和されるのでよい。感染拡大への影響を考慮しながら、どのような形でイベントを行う事ができるかを検討したい。

#### 5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由 説明	奥津溪の紅葉は町村合併前より、町内は言うまでもなく県内外で周知されていた名勝地であり、合併後も町の5大祭りとして鏡野町の観光の一大イベントとして実施している。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由 説明	以前より大渋滞を起こしていた紅葉の季節の奥津溪について、平成16年より警備員を配しての一般車両の乗り入れ禁止、平成18年から一方通行による渋滞解消及びそれを利用した集客を目的としたイベントは、町が主体となり実施すべきである。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)			
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由 説明	地元の自然資産により、町民・観光などに来場してもらうことが目的であり、妥当である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)		
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由 説明	オープニングについては、参加体験等のイベントを充実させ、来場者数を増加させる部分での向上余地はあるが、渓谷についてはかなりの集客で、これ以上の対応は困難である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)		
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由 説明	渓谷の一方通行については、中止とすると以前同様の大渋滞を生じることが容易に予想され、中止すべきではない。	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)			
<input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がある <input type="checkbox"/> 改善余地がない	理由 説明	オープニングについては、町内の他のイベントと一括契約して、効率化と規模拡大が図れる可能性がある。実施主体である鏡野町観光協会より提案あり。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	事業費の大半を占める奥津溪の一方通行等の規制にかかる費用については、現在の事業費で実効性がなんとか保たれており、削減の余地はない。また、人件費の増加も伴っており、削減が困難である。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)			
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	平成24年4月の役場機構改革(振興センター機能縮小)により、鏡野町観光協会への事務移管を行っており、職員の業務時間の削減が見込まれたが、実際には削減に至っていない。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由 説明	イベントを開催するにあたり、広く地域住民に呼びかけており、参加者、来場者すべての人に受益の機会があり、公平・公正である。

#### 6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	イベントを行うことにより、鏡野町奥津温泉の知名度、宿泊者の拡大に結びついている。また、併せて交通規制により、渋滞の解消を図ることができる。 平成24年度よりオープニングイベントについては、鏡野町観光協会への事務移管を行っており、更なる事務の効率化を検討する。																							
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		今後の改革改善案 新型コロナウイルス感染防止対策を十分に講じた上で、イベントやシャトルバスの運営が行えるかを模索し、奥津溪の魅力を新しい方法で周知するための改善案を検討すべきである。																							
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題		<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> (廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
感染の収束が未だ見えない状況のため、開催時点での環境に影響されるものではあるが、ソーシャルディスタンスや三密対策などの徹底の上、非接触での景勝地の魅力を発信するなど検討の余地はあると考える。																									